

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターピノキオの家		
○保護者評価実施期間	令和6年9月17日		～ 令和6年10月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	158名	(回答者数) 76名
○従業者評価実施期間	令和6年9月17日		～ 令和6年9月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な課題を設定しており、親子で多様な活動に取り組むことができる。	・プログラムが固定化されないようグループの子どもの様子に合わせて活動内容や取組方法を変化させています。 ・ひとりひとりのニーズをくみ取り、集団活動の中で課題内容や難易度の調整を行っています。	活動終了後のミーティングで子どもの様子を共有するとともに、次回の活動予定を決め、活動の目的共有を行っています。今後も引き続き職員同士が共通理解を持って支援を行っていくとともに、保護者へのフィードバックもしっかりと行っていきます。
2	親子通園を行っており、子どもの集団での様子について、保護者と共有しやすい。	・前回からの変化やその日の子どもの様子を適宜共有するとともに、職員の対応を直接見ていただける事で安心感を持って通園していただけるよう心がけています。 ・集団活動における実際の姿を知ることで、保護者が子どもの強みを再確認し、課題となっていることへの対応のヒントとなるよう丁寧な関わりを行っています。	職員の専門性の向上のため、事業所内での研修会の充実を図る等、より充実した支援を行えるよう努めます。また、保護者のご希望に合わせた関係機関(幼・保・こども園など)との連携を今後も継続し、協働して子どもの発達を支援していきます。
3	多職種の職員がおり、様々な視点からアセスメントができる。	ご希望に応じて心理士による発達検査を実施し、センター内の多職種がアセスメントに基づいた支援提供を行っています。また、協力医療機関の医師による発達相談や、個別言語指導の利用等、子どもや保護者、ご家族のニーズに応じて幅広い選択ができるよう、医療との連携を行っています。	アセスメントに基づきながら、子ども・保護者ニーズに合わせた情報提供を適切に行い、よりよい選択ができるよう丁寧な対応を継続していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ない。	保護者会等の交流機会は年度初めに行っており、その日にお休みされた方や、年度途中から開始された方には参加していただける機会が少ない状況となっています。	活動参加時に保護者同士で交流しやすい雰囲気作りを行うとともに、年度途中で開始になった保護者も他の保護者と安心して交流できるよう仲介を行う等の配慮を、より意識的に行っていきます。また、ペアレントトレーニングは毎年希望人数が多いため、年長児保護者に対象を限定して行っていますが、ご家庭の状況に応じて対象年齢の拡大を検討していきたいと思っております。
2	保護者対応をより充実させる必要性を感じる。	親子通園を実施しており、保護者と話をする機会はあるものの、活動途中で話をする事が多く、個別に時間をとって相談援助できるタイミングが多くは取れていない状況にあります。	保護者の希望に合わせてグループ前後や別日に相談の時間を設ける等の対応を行っていますが、相談したくても言い出せない保護者もいるのではないかと察せられるため、できるだけ個別に時間を設け、ゆっくり話ができる機会を設ける事が重要と感じています。
3	いろいろな活動を設定しているため、1つ1つの活動時間が短くなってしまっている面がある。	短い時間で様々な経験を重ねられるようプログラムを組んでいますが、その分1つの活動に取り組める時間が短くなってしまっており、お子さんによっては物足りなさを感じたまま次の活動に移行してしまう事があるのではないかと感じています。	グループのお子様の様子に合わせた活動設定ができるようスケジュールの検討を適宜行うとともに、保護者に対して活動の意図を説明し、共通理解の中で臨機応変な時間配分の検討や、スケジュール変更を行い、利用児にも保護者にも満足していただける活動設定ができるよう心がけていきます。